

八宗  
起原  
釋迦實錄

五

~ 13  
4036  
5





八宗起原釋迦實錄卷之五

東都 鈴亭谷 峩譯述

廿九 釋氏一族多く法門不入并提婆佛法を妨ぐ

悉て其後降版王ハ世尊の師弟小無上菩提の説法聽門と  
望み申ひて后宮新宮と初五百の釋種滿朝の群長内宮の  
女官們と咸清滝殿不微由一バ大家悦び敬んで淨法聽門  
あぞ象りけり當下世尊ハ般若の切徳を説きよと審みて  
起く處ハ一切衆生の邪と滅め惡と退け自然の善道不  
至しぬ用果應教の理と最明白示しぬハ君長隨喜の  
後と流して実有がた淨法哉と大家感伏あつる中も  
別く自版王の貴子慶喜 阿難 斛版王の貴子施禪 阿那律 甘

興 時

4038

昭和42年12月12日寄  
和田大作氏贈



卷之五

露阪王の貴子在羅 露阪王の貴子、在羅。あつびふ。婆羅門の鳥陀夷。俱不速く、獲心善道。不赴き、老病死苦を厭ひ、より利。發深衣、不姿を棄て、法身と成ぬ。遠人々ハ次男。世嗣不事と闕さる。其父母ハ却ふ。九族天つてむく。出家切徳と悦び、り。後年施禪貴子の兄、可南貴子。在羅貴子の兄、少皮貴子。各国家と世子不讓して、出家遁世せり。不獨慶喜の兄提婆の之、深く世尊不冠。一志ハ却て佛光と。世不示と。是も亦天の所、所為り。思後をぐり、收事あり。恣て世尊ハ夕陽山と摩訶摩耶山と改めて、清滝殿を割場と。心被附短あんど聞へ。妙法と説ぬ。ハ聽聞の成る。伝して、益法門不敵さる者。吸くぞ教倍しける。當時提婆の

国不在。滂る由と聞より、若嗔怒除、倍けは、深き遺恨の。患多と害して、佛法と破滅せんと。大惡念と獲し、去より。阿雅の出家と大く憎む。骨肉同胞の兄弟あると、義絶の憶ひ。うち過つ。其身ハ妖術をりて、魔神と役使。法此妙法と。呪做し、うら。北冥山の道士を斥く。邪道を学び、妖術と習ひ。神後奇特と修煉し、けは。一日、教萬の魔軍を願へ。雲不勝つ。死降り。摩訶摩耶山あり。世尊師弟と屠尽。てらまんと。潮の湧く如く、難波と化り。毒霧と降し、毒を獲つ。其霧ハ咸蓮華と変し、毒霧ハ青て、最涼し。香風吹下し、魔軍們う。不く、奪る。數系の劍戟、皆空中ハ吹墮し、忽地魔陣の真向より、雨の如く、不降下。魔軍大ハ不勢き、周章て。四散ハ落不逃る。提婆も亦る。

釋迦卷之五



還たしつ。亦懲むす不數回。魔殺せんと窺へども、邪ハ正不勝ト  
 独り後ハ亦邪計を更て、其身一個の道と變へ石を  
 玉と。瓦と黄金と。神變不思後の邪と行ひ、諸国と經  
 歴しつ。佛法ハ本邪道あり。親兄弟妻子を捨て、思も情も  
 顧も。子孫を絶むと殊勝と心得、剃髮染衣の姿と成む。  
 主ハ下人、不齊を修へ、總ハ子と礼稱む。寔ハ愚盲の至あり。  
 と移行せ凡俗の。匹夫惡婆ハ枉惑せしめて、遠惡言を理  
 論とし、提婆ガ妖道士を信む者、漸々不孫儀しつ。累々  
 阿支羅兜国王の子、阿闍世貴子、鉅奢那国王の子、龍檀貴  
 子も、提婆の言と信用して、其父王と廢し、王化不救きて、  
 專逆意を企てり。是不依て提婆連多ハ往きて、しつり  
 圖不棄て、国家の亂ある、轉迦を豫し、七国の源ある、佛法と

破滅せんと毒舌と啼しつり。世尊ハ天眼通天耳通も、提婆  
 が惡行を知覺めせば、是を捕へ懲し、あふ不釋くも在し  
 まさねども、彼自然惭愧して、正路不皈むるを候あへ、其  
 終捨措ゆひし。渠ガあふ不惑ハさきて、五逆罪を贖し去  
 者と、速く救むを乞ハ冥府ハ隔べし。と大慈悲を獲し、あひ  
 阿羅漢を皆從つて、初利天正寺を出家ひ。提婆ガ毒を流し  
 へつ。国々と經歷しつ。懲不遂ひて、後理を知りぬ。匹夫匹  
 婦を教化し、あひ。阿闍世、龍樹の両貴子とも、懇切に説し  
 めつ。兩貴子漸愧後悔して、慶せし。父王を亦奉、おしそ  
 きて、孝養し、あひ。佛法信者と成し、り。寔ハ教餘の甲  
 斐ありし。世尊師弟も、歡喜つ。躬て靈鷲山、不假精舍を  
 營む。佛法教化し、あへ。遠近の老若男女、日毎不棄、清



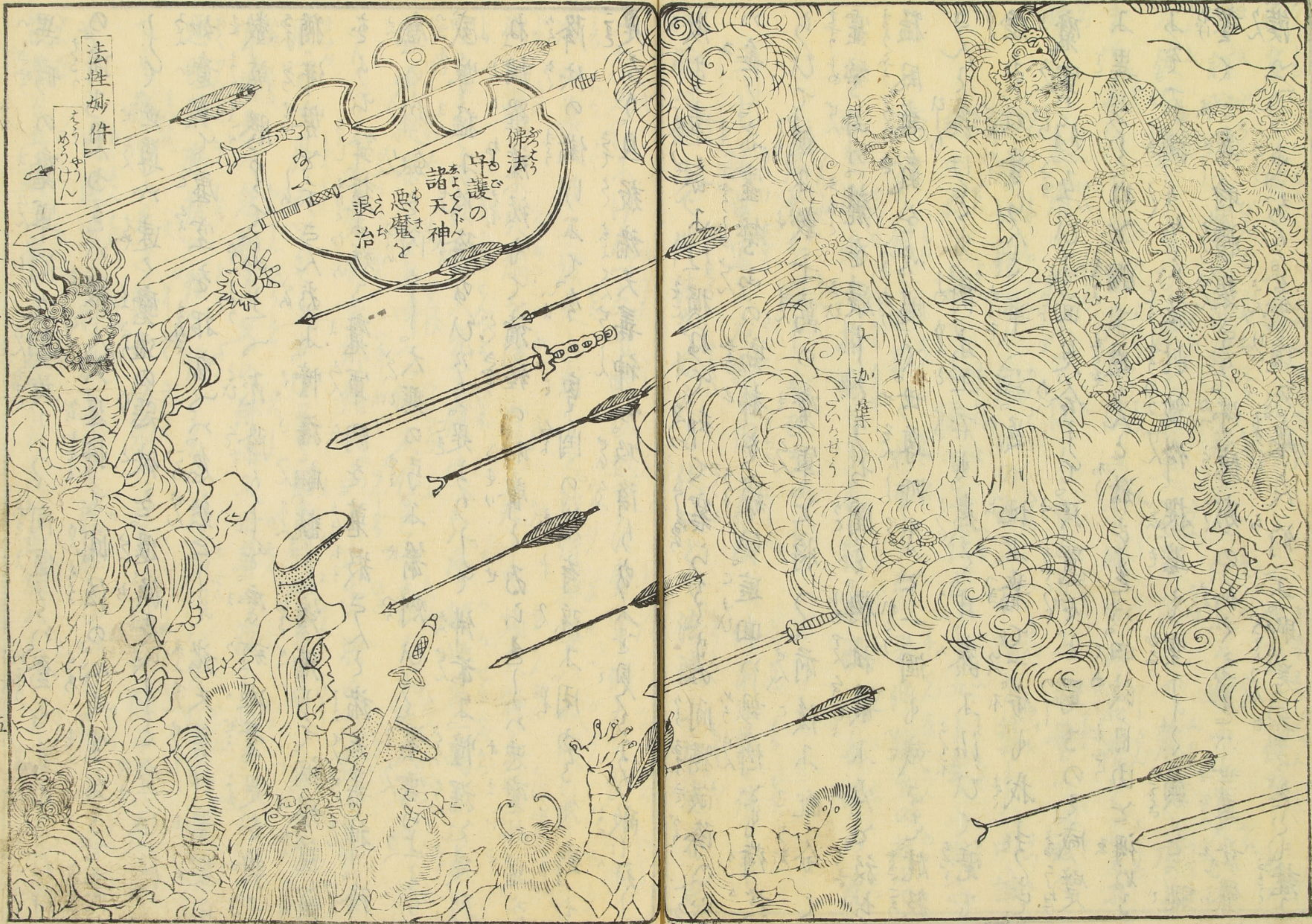
群集せり。然るに當山浴峻し、て此來感便ありぬ。摩訶陀國の頻婆沙羅王衆の信者、與ふも大い人徒を獲し、あひ。巖を碎き谷を埋めて、麓より頂上まで、長たて五里左右、廣さ十餘歩の石階を、不日不築たて、泰清の便不ぞ成し、あふ。寔不無量の切徳之頻婆沙羅王が、剛法のため、石階を築し、西域紀の説不、擧て、如來世不在を、五十年不垂き、頃あり、然るを早く抄出、志、畧傳編文の故、あてわり、前後遠格、勘り、を、省官、混乱、無替の、説と、編者を、維、ト、あひ、あせ、と

三十

法華宗、不、左、靴、を用、了、權、興、并、佛、前、不、花、と、供、了、事、提、婆、の、飽、ま、で、佛、法、を、好、人、と、伎、倆、ど、も、法、徳、不、力、速、む、む

做、を、事、毎、不、仕、損、ね、て、却、て、害、ら、る、り、の、間、彌、飯、降、の、心、ハ、無、く、亦、靈、鷲、山、の、動、靜、を、窺、ひ、這、回、の、妙、件、を、も、荷、持、ら、ひ、て、俱、不、教、十、萬、の、魔、軍、を、將、つ、前、後、不、配、分、て、靈、鷲、山、の、麓、を、嚴、し、く、圍、こ、樹、林、叢、不、火、を、放、ち、猛、風、毒、氣、を、吹、颺、て、世、尊、師、弟、を、一、個、も、殘、さ、さ、焼、殺、さん、と、焚、け、ど、も、樹、木、土、石、も、悉、く、甘、露、不、沾、ひ、て、毫、も、煙、を、攻、登、ら、ん、と、辛、一、ハ、足、ハ、地、不、著、て、一、歩、も、我、ま、さ、じ、魔、軍、們、互、ひ、不、面、見、合、し、て、只、罵、々、と、罵、る、の、威、聲、不、異、あ、る、ぬ、と、惘、て、退、く、と、欲、を、是、ハ、四、波、自、由、と、得、ぬ、る、あ、ぞ、不、測、々、々、と、法、付、妙、件、提、婆、も、空、し、く、巖、を、眺、望、一、霎、時、慢、然、ら、り、佛、德、彰、の、如、く、あ、る、ハ、世、尊、法、羅、漢、ハ、更、あ、り、泰、清、の、衆、人、們、不、聊、恙、毎、々、と、も、麓、を





法性妙件

えんりやけん

佛法の守護の諸天神  
悪魔と退治

大か葉

だいしやせう

釋迦卷之五

釋迦卷之五

五







聲をふり絞りて。南無釈迦如来。看しぬ。一方僅俺が為し  
 税ぬひし。尊き浄法ハ心魂不。微し。かぐも猶迷ふて。悪  
 念消滅せざりし。俺あぐ。最後間し。實遠身ハ人間  
 あらむ。天地開闢の時世。不。六萬餘歳長命し。牝  
 不。自然通を得て。妖術と弄ひ。慈不邪行を。提婆の  
 惡不。容て。最も尊正法を。婦人と志し。僧。遠服  
 變化。佛果と得ぬ。是。若必滅の理を。惜りて。彼。不  
 到るべく。俺。後。皮と剥て。虛。不。張。且。不。とら  
 ぬ。五。四。九。八。七。の時。追ひ。夜。ま  
 箇様。魔。惡魔。時。違。思。感。妨。あ  
 すと。遺言。忽。本。現。け。最。牝  
 みて。憾。悔。罪。む。乞。ひ。け。其。隨。苦。痛。の。俸。も。大。洗。せ。と。

遂。不。了。了。世。尊。諸。羅。漢。ハ。最。初。より。牝。ある。と。知。覺。な。ど。も  
 提。婆。ハ。さ。く。と。聽。聞。し。悉。皆。し。了。了。衆。人。も。遠。奔。事。不。便  
 き。つ。愈。佛。法。の。廣。德。を。尊。信。して。尊。尊。を。一。終。終  
 ち。り。ける。猶。中。提。婆。達。多。ハ。大。ハ。不。漸。愧。後。悔。し。つ。惡。心。を。改  
 ぐ。し。て。法。身。と。做。し。も。と。頻。不。陪。話。つ。乞。奉。了。誠。心。を。觀  
 念。し。て。世。尊。ハ。善。哉。と。稱。し。ぬ。髪。を。剃。せ。法。衣。を。与。て  
 法。名。彌。達。と。号。ぬ。ひ。つ。弟。子。も。あ。ぞ。せ。り。走。ける。諸。亦。牝。の。妙  
 件。不。引。導。を。授。ぬ。ひ。而。ち。渠。が。遺。言。不。終。し。皮。を。剥。製。作  
 し。て。是。を。右。靴。と。号。け。つ。時。々。定。數。を。お。吟。せ。し。より。惡。魔。の  
 障。碍。ハ。無。り。り。ける。是。あ。ん。右。靴。の。權。輿。あ。り。時。の。撞。ハ。是。より。必。づ  
 介。是。ハ。右。靴。ハ。惡。魔。降。伏。最。一。の。要。具。あ。る。ハ。後  
 皇。國。不。日。蓮。上。人。法。華。宗。と。江。湖。上。一。推。阻。ぬ。ひ。時。其。高



徳を精むある。悪魔の障得多うるを。上人則ち敷を用  
あり。説法續經の物々ハ。最も烈しくおぬひ。悪魔を退散  
ぬひしより。今ふ至りて。法華宗の題目の條ふ合して。左  
敷を扱く事との成ぬ。

周ふつ。世尊件牛の皮をもて。左敷を扱りぬひしより。  
其形三國不傳来して。後ハ軍陣の要具ふ。用なる  
事との成ぬ。其形ハ寸法わり。筒の長さ一尺二寸。  
十二天を表す。面直九寸ハ。九曜の星と表す。兩  
面の皮ハ。日月を象り。張繩の皮一寸六分ハ。十六善神と  
表す。一方の條の數二十八ハ。二十八宿を表し。一方の條  
の數三十六ハ。三十六禽を表す。あり。附て曰。面直を  
表せる九曜の星ハ。羅睺羅星。土曜星。水曜星。金曜

星。日曜星。火曜星。計都星。木都星。月都星。以上是ハ  
條の數ハ表せる二十八宿ハ。東西南北不現る。星あり。  
連圖左のごとく。角星。亢星。氏星。房星。  
心星。尾星。箕星。以上東方不現る。斗  
星。牛星。女星。虚星。危星。室星。  
壁星。以上南方不現る。奎星。婁星。胃星。  
昂星。畢星。觜星。參星。以上西方不  
現る。井星。鬼星。柳星。星々。張星。  
翼星。軫星。以上北方不現る。四七。二十八宿是  
あり。三十六禽ハ。十二支より出づ。十二支の一支と毎ふ。二有  
て。是を三十六禽といふ。古よりの術數あるも。今ハ之を  
知る者少し。子ハ鼠。蝙蝠燕あり。丑ハ水牛。黄牛兕牛



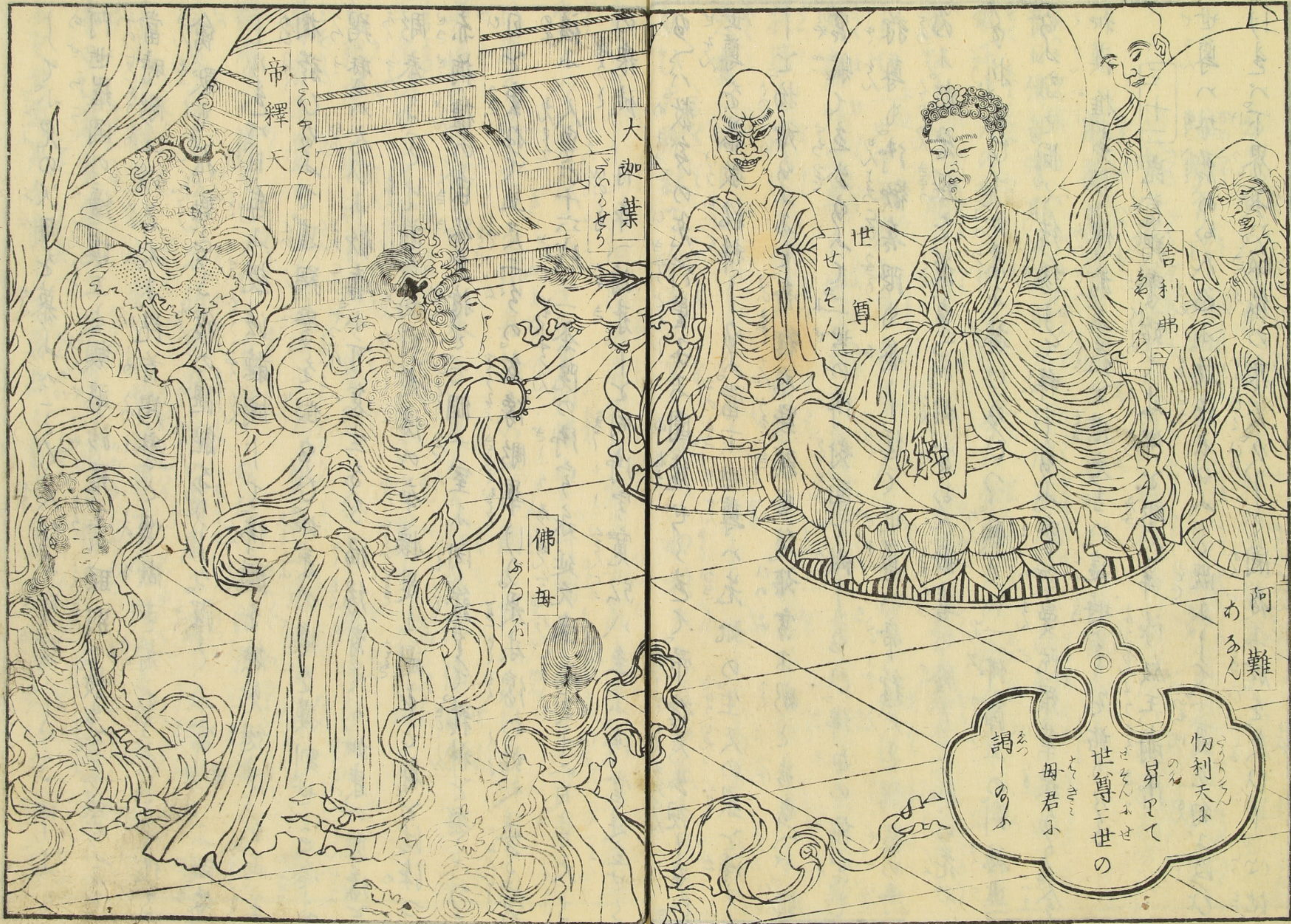
樟の鼻の  
香るきりの  
るり

あり。寅ハ虎。豹。猫あり。卯ハ兔。狐。貉あり。辰ハ龍。蚯蚓。  
蛤。蟾。多ク巳ハ蛇。蛆。蟬あり。午ハ馬。鹿。獐あり。未ハ羊。犴。羚あり。  
申ハ猿。猴。狝あり。酉ハ雞。雉。烏あり。戌ハ狗。狼。豺。亥ハ  
豚。獠。高猪あり。以上を地の三十六禽といふ

昔日佛母摩耶夫人前世の切徳廣大故。初利天の福相と受  
既小生天の果と得ぬひて。今ハ帝釋天の御姫宮と傳りて  
ぬひしと。三明六通を得ぬひし。世尊ハ教不覚ぬ。昇天  
して二世の母君不。見悉奉らんと思ひぬ。佛法障の  
惡魔外道。虚を擧ぐ。拘おまは。遠上を去る。在ら。佛歎  
提婆も降伏し。御牛も解脫して。其皮大い。切を奏し。の  
惡魔の妨げぬ。り。今ハ心安し。思して。高きと。送ら  
ぬひ。天。醜。了。金色の雲。不。勝。つ。初利天の。善。現。殿。不。昇。り

ぬ。ハ。数。多。の。花。行。童子。不。圍。繞。せ。て。帝。釋。天。出。現。し。ぬひ。  
世尊を恭敬礼釋し。當下世尊ハ先妣の生天の果と得ず  
し。と。物。始。ぬ。小。小。と。帝。釋。天。默。頭。ぬひ。姫。宮。不。那。と。告。ぬ。ハ。姫  
宮。軀。て。立。出。ぬ。ハ。二。世。の。淨。對。面。と。做。し。ぬひ。佛。母。の。姫。宮。も  
稱。尊。も。淨。歡。喜。限。も。無。し。憇。て。世。尊。ハ。帝。釋。天。と。姫。宮。の。淨  
為。不。報。慈。經。を。説。ぬ。ハ。姫。宮。おん。歡。喜。の。陰。り。不。拈。の。花。を  
も。拈。ぬ。ひ。て。如。來。不。捧。げ。ぬ。ひ。つ。願。く。ハ。一。佛。淨。土。の。引。接。蓮  
花。小。と。圓。く。結。緣。し。て。釋。し。ぬ。ハ。摩。訶。曼。陀。羅。華。是。あり。今  
和漢推あ。て。佛。前。不。花。と。供。え。る。ハ。這。時。より。を。始。り。り。り  
三十一 毘首羯磨始て本佛と彫む并淨飯王崩淨  
世尊ハ母君のおんぬ。法。法。志。ぬ。ハ。既。不。し。て。一。夏。九。旬。不。及。び  
け。ま。バ。下。界。ぬ。ハ。皈。依。の。衆。人。久。く。一。閻。夜。不。燃。を。笑。ひ。し。心。地





帝釋天  
ていしやくてん

大迦葉  
たいかえつ

世尊  
せそん

舍利弗  
しゃりふつ

佛母  
ぶつぼ

阿難  
あなん

佛母  
ぶつぼ  
とくき  
母君  
むきみ  
世尊二世の  
せそんふせ  
の  
身にて  
のん  
切利天の  
せりてん  
謂  
い  
の  
よ

釋迦牟尼

釋迦牟尼



して小児の父母を慕ふがごとく大いに愛慕して、中にも  
 阿世羅国の優填王と頻婆沙羅王へ取別て最も喜ぶ不嬉のふそ  
 當時彫工の名人小毘首羯磨と喚ばる者あり、亦よて像を  
 禽獸も死動する程の堪能ありしが、深く正當佛法を飯依  
 一り色べ、日毎小説法聽聞して佛顔を能見總てを両王  
 相敬ひあひて、遠羯磨を徴ひ、如來の像を模刻せよと命ふ  
 羯磨ハ大いに歡喜小可息生ある福縁有て、如來の尊像を  
 彫奉ると、中前の面目死後の幸懷是、過とと身と法淨つ  
 赤梅檀の良木を指し、一個一室、小閉籠して、精神と聚つ  
 日と重ねて五尺二分の立像彫畢けり、是木像の始、遠る像  
 後、小入皇六十六代、一条院の清寧永延元年三月十二日、東大寺  
 の衆徒、日本一持来し、と同清寧寛弘八年、小入堂建立せし

まけり、今、小入山、藏國清涼寺の幸堂、小安置し奉り、則、釋迦  
 堂といふ、毎歲二月十九日開帳あり、寺僧各帛を以、佛像と拭  
 ひ奉り、浴、小是を淨身掛といふ、糸緒の端、人大いに群集、是  
 嵯峨の釋迦と、粟一奉り、是あり、却、後佛像、法然一志、而  
 王、怡ひあひて、靈篋山の密、厥小安置し、つ、各、礼拜し、あ、か、き、  
 小羯磨が精神を用て、摹刻し奉り、尊像あま、如來の  
 尊容、小毫も違ふ、と、兩王、右、感涙、小、淨袖と、泣、ひ、つ、集て  
 羯磨と、懺ひ、大いに賞讃し、なひて、金銀珠玉を、編、り、り、  
 遠尊像を、後、小、依、園、精舎の、密、厥、小、遷、して、安置し、奉  
 り、也、諸、釋尊ハ、切利天の、後、法、畢て、帝、釋天と、母、君、小、別、と  
 告、あ、ひ、若、靈、篋、小、降、あ、つ、波、木、像、歩、り、出、て、世、尊、を、迎、あ、  
 小、也、世、尊、是、を、齋、して、善、哉、と、賞、し、ひ、小、佛、小、對、ひ、あ、つ、若、温



樂遠なる有る者も其小代りて未來の衆生を濟度あるべしと  
 宣ひつゝ俱小殿上へ入るべし。云密敬依の人々ハ大ひ小歡喜  
 滿躍一つ亦感涙とぞ拭ひける。茲小淨版王ハ釋尊ガ諸國と  
 教化せしべしとて。若迦毘羅衛國を出しより。既小數多の年と  
 経まども還りぬらざる等不憊あり。今ハ老衰ありて改  
 車も懶く思せし。聰明睿智凡ありぬ。難陀太子小轉輪王の  
 位を讓てぬらんとて。受禪の式を行ひぬ。

月氏國王傳統系譜  
 四神龍道靈弓靈箭  
 四魔能莫惱白蓮劍  
 閻明如意密珠  
 從蓬萊宮所獻玉冠  
 同王幡纓蓋飛竜鉞  
 五天竺山海陸野道地圖  
 佛の密器を授けりて。仙洞に移住しあり。老を獲ひぬ。後小

病露の濟不例より。大く重らせぬひしが。今ハ著婆も率  
 して。死病を愈ま由も無く。哀を萌濟志ありらんと。衆人  
 愁ひ不沈と。世尊ハ天眼通りて知覚あり。摩訶迦葉と  
 靈鷲山不在と。阿羅漢羅睺羅。優婆離密。目連。舍利弗。  
 以下の阿羅漢等と。分ちて相從し。淨雲小勝ありつ。一千五  
 百里の行程と。瞬間小飛行して。迦毘羅城あり。仙洞の深  
 小入るべし。遠時既小淨版王ハ。形未變あり。おたぬひし。先  
 釋尊の師弟昇殿して。玉躰を礼拝しあり。法顏を齎して。  
 歡喜小堪ぬらば。濟病苦忽地愈て。心禪定小入り。如く。龍  
 眼を閉ぢひ。睡がごとく崩濟しあり。難陀王を南奉り。三后  
 宮。三新宮。女官群臣前後と。失ひ返戀し。して。做棚あり。屯  
 余は世尊ハ。大極哀返悲嘆ふ。おん骨も。塞りぬ。ひしを致







意ハ持戒の僧と比丘といひ。女を通行して尼といふ故。比丘尼  
といふ。僧の女といふも一般。今も五百戒と持と雖も。男女天  
地の差あるべ。應小比丘の次つるべ。とぞ。諸も后宮の菩提の  
道一。入らひしと羨ましく。好容芙蓉の両夫人。鹿野女。瞿陀弥女。  
耶輸陀羅女の。三新宮と甫として。其方さぬ小宮仕の女官們  
多く女僧と成て。法門不入。鳥將軍夫婦も仕を辞して  
復小佛堂と成。一より。兩夫人鳥將軍夫婦ハ世尊在世の程小  
世を去つ。三新宮ハ佛涅槃の後。無念無想小往生の素懐とぞ  
遂不ける。梵中耶輸陀羅女の。妙惠尼と法号して。庵室と摩  
訶摩耶山の麓。小造り堂あり。三摩耶行不入。静小六塵  
の世を脱まぬ。此ハ是後の話あり。

編者自評道。妙惠ハ真の比丘尼あり。人力を尽して。

精舎を造つ。唐草の庵さ。雨露を凌ぐもの。素門の志。彫り有ら。紀事小。人稱名。小草と以。圓居と  
る。菴と曰。菴ハ菴あり。自願菴あり。と見。自然を  
菴と稱する。僧徒の栖あり。つれを。迦世ハ。本邦の信陽院  
二ハの掛行院。或ハ。鱒汁屋。割烹家あり。庵号を稱する  
廓。都會の地。小。隨多。河漏。麴ハ。昔一僧。焦。初  
一。あま。バ。余も有べ。愚考あり。委。く。い。予。が。近。刻。汁。粉。屋。ハ。備。措。て。  
割烹家ハ。魚。多。の。肉。と。庵。丁。と。する。の。と。あ。り。び。て。現。生  
ると。適。ハ。屠。殺。做。さ。事。あり。る。う。ろ。何。が。菴。と。稱。する。ハ。  
相應。う。き。き。ふ。べ。亦。那。指。師。の。菴。号。ハ。世。を。風。流。小  
遁。走。られ。芭。蕉。翁。を。真。似。小。有。あ。ま。と。真。の。庵。と。い。ハ  
寔。小。妙。一。菓。庵。と。ハ。表。の。も。裏。を。現。け。ハ。原。素。文。之。旨。







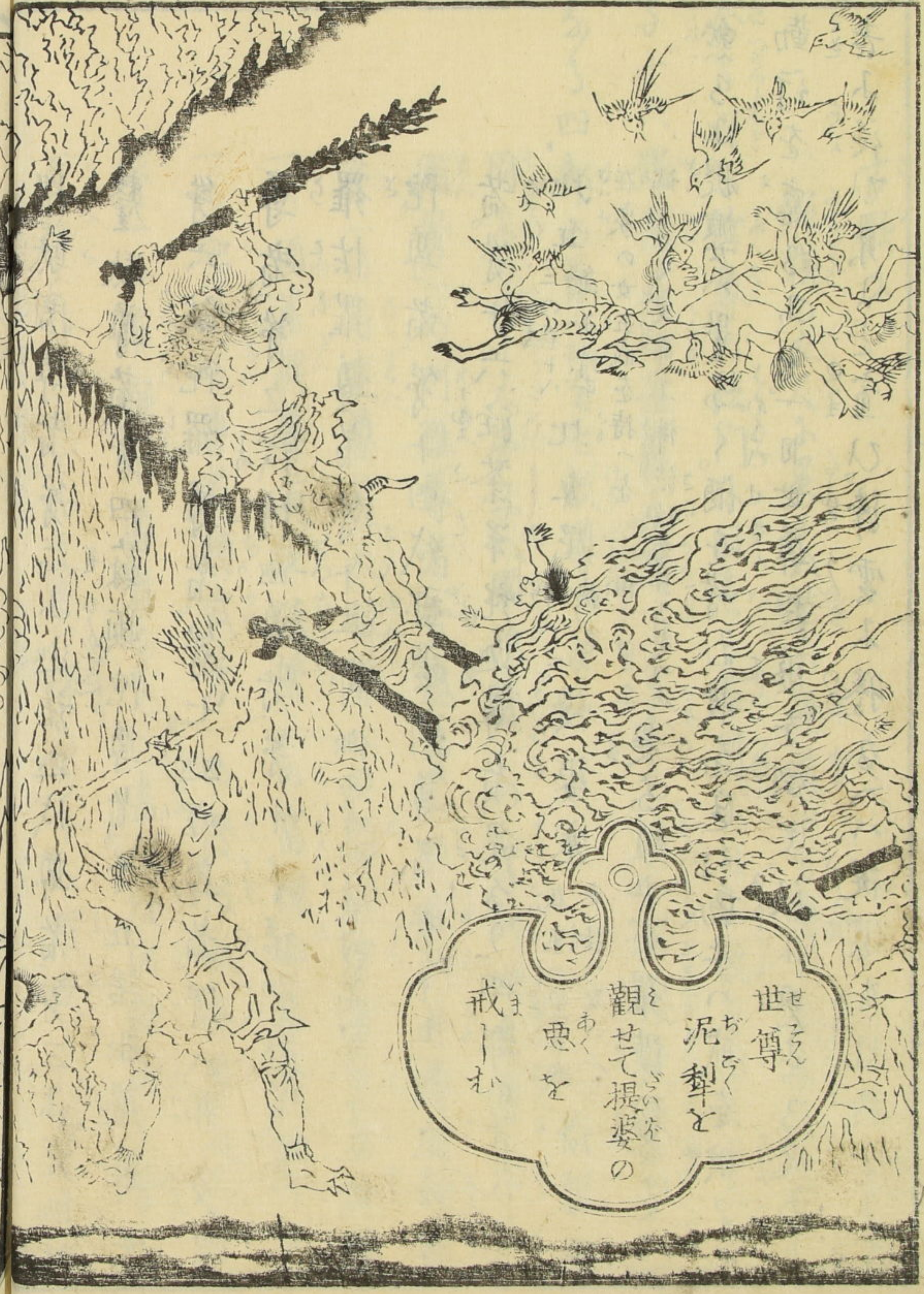
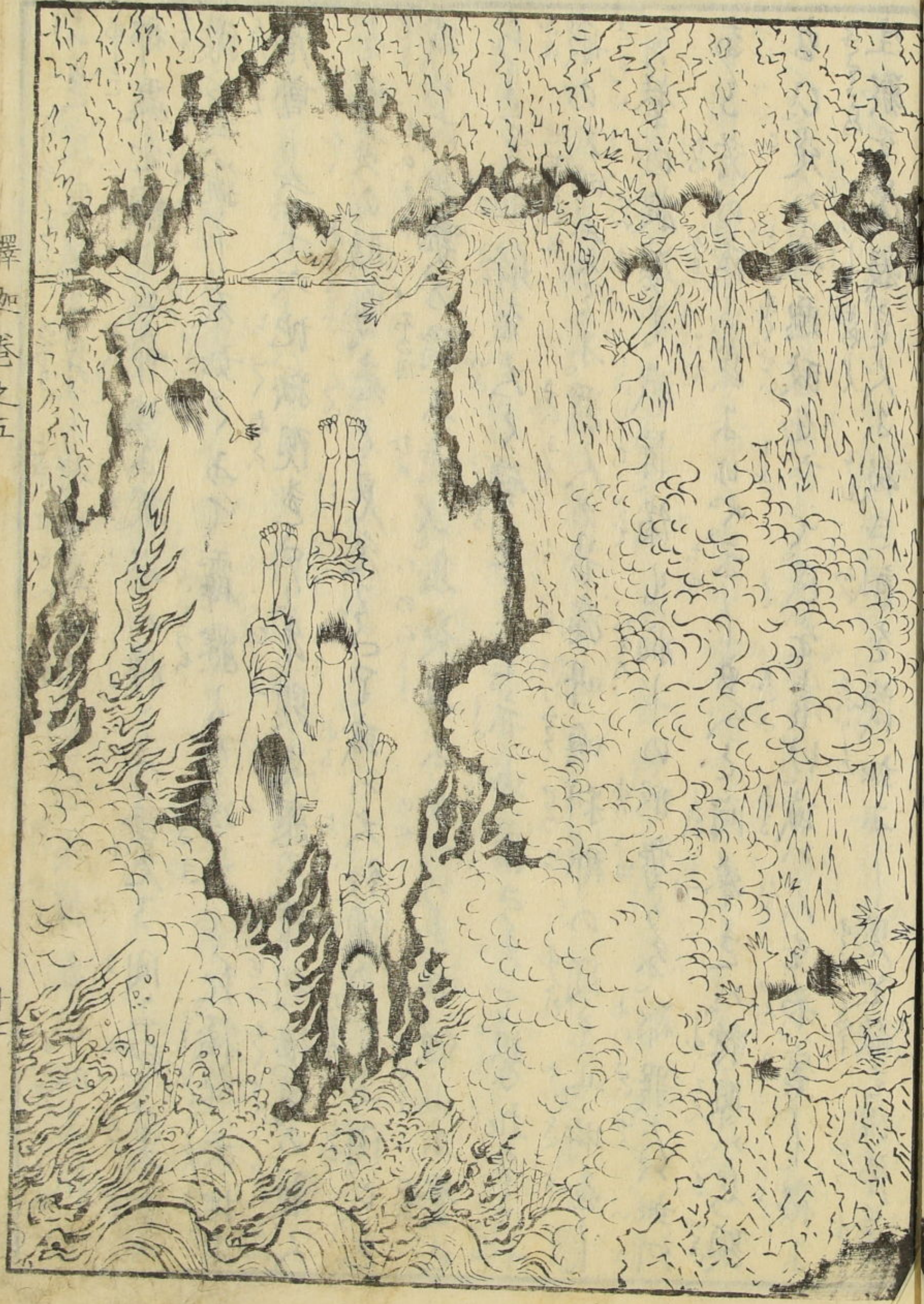
古歌

經模の九尺不思の草の庵緒より悔一兩垂りせば  
余も不釋尊の法門に皈せし者月日不數をひて十大弟子十六羅漢五百羅漢と高下を分かち其の衆徒數萬人あり四部の弟子を七教導しめし

因ふりし十大弟子に頭陀第一の摩訶迦葉尊者多聞第一の阿難尊者智惠第一の舍利弗尊者神通第一の目連尊者天眼第一の阿那律尊者龜持第一の須菩提尊者說法第一の富樓那尊者論議第一の迦旃延尊者持戒第一の優波離尊者忍辱第一の羅睺羅尊者あり一書に優波離尊者を譽て可羅といふと加えしに優波離尊者十六羅漢と第一不

羅駄闍尊者第二不迦流迦伐尊者第三不流迦跋  
整駄尊者第四蘇頻陀尊者第五流鉅羅尊者  
第六跋陀羅尊者第七迦哩尊者第八弗多羅尊者第九伐博迦尊者第十半流迦尊者第十一羅怛羅尊者第十二那伽摩那尊者第十三因揭陀尊者第十四伐那婆斯尊者第十五阿氏多尊者第十六注荼半陀迦尊者是より四部の弟子といふ比丘三の卷十八比丘尼前丁二優婆塞在家の女五戒を持し但し男不優婆夷在家の女五戒を持し佛法信者たるをいふ是より五百羅漢ハ畧を然る不提婆ハ畧なく酒を嗜む收あまは動止ハ戒を破りて勤行を怠るふと一日世尊提婆を徴て汝不見たる處あり者不説ひ来よと宣ひ降雲不勝のハ提婆も自然雲不





世尊  
泥犁と  
觀せて提婆の  
惡を  
戒む



らき。虚空遙小昇。一時世尊の子女を指揮おひ心不記。那處を觀よと命せし提婆ハ洩えつゝ見了閻王起る雲ハ濃墨流し去如くあて霹靂より凄冷ト紀。猛聲天地不震動。つ十六地獄現きなり。牛頭馬頭の羅刹。億萬の罪人を呵責の形勢。悉く見えし。或ハ大紅蓮の氷小閉らる。或ハ大焦熱の焰小皖び。焦炎車小棄らる。刀劍山小登せらる。五輪を大く劈きしと。亦遠流さきて繋けらる。千般の大呵責。小罪人の苦痛叫喚。刹那の間も止時無し。有聲の提婆も戰慄。怖も胸の形勢。那罪人の如何ある者。或は累小ゆや。示しあつと同奉まは。轉尊ハ良願おひ。是ハ威惡政を布て。民を虐げ。或ハ人を殺害し。提婆生獸を屠殺。是人小殺き。親を殺如し。兒を殺。後弟と稱

まざり。卜者妻子小泣を見せし。他の女を愛し。或ハ辟陽侯と引入て。夫小取辱と與えし者。或ハ酒を過して父母より受し。身躰を竟小傷り。他の妻を密通て。猥と。或ハ他と極まき。高利を債て。天下融通の金錢を積蓄して。施さる者。其它妄淫竊盜し。或者罪の極重小流ひて。十六地獄小墮落せり。那を見上。猛火の宛小隔りて。登るも恨の苦。若しむ者ハ五戒を破り。罪の責あり。と審小示し。或ハ小提婆ハ亦恐怖あがり。奈何し。五戒を皆破り。小者。或ハ同奉まは。小命をばとよ。彼行ハ邪バ。他小誅きて。妻も毒ハ。酒を久く深く嗜みて。醉狂人と号まつ。常小飲酒戒を破り。一日合壁の終を盗み殺して。食喫ぬ。是殺生と竊盜の二戒を一時小破り。折し。隣家の女ハ斯とも知らむ。



將を得ね来しと。理なく己室へ引のて。強逼く是と交通え。  
邪淫戒を破りて。淫小。這女悔しがりて。官へ訴へし。忽  
地召捕きて。訊問さる。腹たくりも知れず。と稟し。妄語  
戒を破りし者之如斯。大罪を犯せしが如き。其原ハ酒よりし  
を依て道を学ぶ者あり。酒一滴も飲を禁む。借使在家  
の男女。女子りとも。半小酒を飲者。原終小其心迷乱して  
正念を失ひ。必走泥犁。墮落せし。將死しぬ。後の事ある。老  
現小酒ハ人を殺し。正念を失はし。毒業之。醉て前後と知り  
ざる時。息の呼吸ありと雖も。醉ハ死人小異らば。亦睡さる  
を怒罵り。或ハ泣哀して。地を固らせ。原未放心し。在ハ恩  
たぬ不義と。亦損失して。醒て悔まども。人宥さば。墮地獄中  
の地獄。大病中の大病ハ。酒より倍するの罪。余は。醉むを

悪強して。人小酒を飲むる者ハ。死して。冥府の呵責ハ。勿論五百  
生の其間。鱗属或ハ蛇虫。四波毒た者。不生べし。と懇  
切小教諭し。ぬひ提婆の飲酒を戒め。ぬひつ。直小下界へ降り  
ぬ。提婆ハ。夢の賞し。如く大ハ。漸愧後悔し。身之罪  
を勸解奉じ。是より勤行懈怠なく。竟小阿羅漢果を得ぬ。  
小提婆の新宮も。母君も。愈世尊と信仰し。白阪解版  
甘露版の三大王と共に。佛果とぞ得ぬ。ひらる。  
三十三 佛の教化。月蓋蓄財と。教を并。祇園精舎を営む。  
雜陀王即位の後も。君臣和して。民富饒小。天下暴平あり。一六  
世尊亦衆徒を従く。帝土を離て。諸国を。經歷教化し。ぬひつ。  
性々て。毘舍離国ある。菴羅樹園大。林精舎の。重閣講堂。不  
入ぬ。ひて。二千五百人の比丘と。俱小。説法教導し。ぬ。おを。日毎ふ



群集して聽聞せし者、各々信心肝不裕して、賢なる最早く  
 諸根と凋伏し、諸の煩惱の六度不趣き、菩薩の修行六波羅  
 密をおこるふあり、出家得道  
 したる輩、二萬餘人不逮びり、然るも遠邊あり、月蓋長者こ  
 嚙、故を者あり、財宝無量不積蓄して、家の造りハ王居不等しく、  
 栴園最も廣大あり、小洞を以、築地を裏し、池ハ、瑪瑙の石を敷  
 黄金の桶不摩尼宝珠と莊嚴、壁ハ、淨玻璃、扉ハ、金銀玉の漆  
 綿の帳不種々の花慢を掛つ、珊瑚の枕、琉璃の牀、屋棟裏  
 天井柱、勾欄、都て遺なく、金銀珠玉を採め、さる襪漏も、無  
 けさ、バ、光輝四下不散、徹して、觀るも射眼き、天堂宮觀、度  
 面三時の景色を、尽く、志、泉水、鏡山、諸木の名花ハ、微細不  
 名状さ、べり、も、彫り、富貴歡樂、妻子、氏族も、榮つ、つ、  
 其躬ハ、五十歳不、減ぬ、も、も、愛執の海不沈、く、け、死流轉の

苦界と知く、慳貪、慳情、慳心、毫も無常を觀せぬ、二宝  
 飯御の心ハ、善く、近、海、不、世尊、在せども、諸人とも、せ、後、思、中、り、  
 夫、池、不、好、意、あり、也、不、自、不、慈、を、執、不、令、了、と、佛、子、ハ、物、と、供  
 養、して、佛、より、其、恩、と、報、を、と、更、不、盡、り、色、バ、佛、供、養、ハ、無、益  
 あり、と、故、く、後、世、も、當、ま、ぬ、由、世、尊、傳、ハ、聞、し、已、て、噫、憐、む、じ  
 新、く、べ、り、一、切、の、男、女、四、法、と、四法ハ、一、善、知、識、二、不、能、法、と、曉、三、不、養、を、思、惟、四、不、説、の、如、く、行、す、 具、せ、つ、ま、へ、  
 邪、行、不、し、て、善、提、心、あり、是、を、人、身、の、身、と、名、く、彼、富、貴、歡、樂  
 不、し、く、其、身、因、王、不、等、し、く、と、も、躬、て、ハ、現、世、う、高、生、道、不、隨、  
 一、も、不、異、あり、も、速、く、救、ひ、得、さ、る、べ、り、と、大、慈、悲、心、を、發、し、  
 あり、と、縁、多、く、衆、生、ハ、度、し、難、け、る、バ、遠、方、より、赴、く、べ、り、と  
 阿、耨、羅、羅、羅、目、連、須、菩、提、優、波、羅、密、們、を、已、に、學、び、亦、く、も  
 釋、迦、牟尼、如、來、大、光、明、を、釋、し、り、月、蓋、長、者、ハ、簷、前、不、停、立、







して苦くあん。斯くての長者が前世も修行し善行も画階あり。若令悪心を故轉して善道も極きあるは二世の功德廣大ふて。来世の極樂天堂へ必まゝも生るべし。貴賤貧富推ふくいて。老病死苦と脱まぬ。三界の安たると無し。樂しみと思ふ苦く。善いと思ふの憂ふ。善悪三世の輪廻を離れて天上の果を得ん。あは六塵の樂慾を最厭ひ離べし。慾の大ひかりて止め難き別。て色慾貪慾あり。諸の煩惱中も貪慾最勝なるを其業縁。轉深きを憂も悟るで後の世を當まらざるの愚あつてもや。余まの財宝を惜みて救さば。貪まとも飽くと無き長者の何歳まで。在世心を借使百壽と保つとも。現世の帳の竹家あまの長者。とく善美を尽せし。金殿樓閣も身と置いて。暴水猛風震雷の逃り。防ぎもまゝり多と。無常の風は避難くも。命終るも除く。

ての妻子珍寶宮殿庫倉器財王位と雖も隨て身一個善悪の修行も隨ひ極樂の地獄へ却くの。借死後不至りて。其身貪慾無慾より。僕侍少て子へ遺せども。教訓正しう。さきば多くは是不肖の子ありて。父母の死せしと事ひも。慈意も欺辱を捷ひ。身と放蕩も持壞して。竟るは室庫田園と賣。父母も多幸幸苦の蓄財一時も尽て。幸忌候養も。做難く。至ら如きは。是夫無善の惡報也。適家産と亡はさるる。億の。冥子無し。亦々女の子をりありて。他の男子と養ひつ。若も。食むして蓄へし。山做を財貨は只洗ふ。孰も他人の有り。長者知らむら。滂ふ。子も黄金滿籬を遺さんより。一經と。小如きといつ。子孫も官福と遺るは危し。清貧却ふ。と。長者速く無明の醉と。賞し。善提ふ。上と。と。靜ふ。



教導一也。バ月蓋長者ハ聽事每不感以。つ今初て佛  
 法の尊たてと。發明して。漸愧不慙と。世尊師弟を礼拜しん  
 無慈悲の罪を懺悔して。佛法信者と成り。より。大林精舎に已り  
 園園を多く寄附し奉り。輟寡孤獨を憐して。廣く恤む施し  
 け。まは世の人其徳を仰たり。今も。程亦舎衛國ハ須達長者と  
 嚙做を者あり。月蓋の縁家にして。富貴も勝劣無き程あり。ん  
 月蓋三富不飯依せ。由と傳へ。聞て。俺も亦如來と請ふ奉らん  
 億小りの同遠土地に。精舎一宇も無く。一六富國の貴子祇陀  
 の莊園度さ八十頃。の地所一面に。黄金數億萬兩を布滿し。并を以  
 遠地を購ひ求む。其志と感嘆して。祇陀貴子も伴の園ある。樹木  
 玉石と寄附し。ハ月蓋遠義を聞り。須達の志ハ力と令し。亦巨  
 萬の財を散して。土木の工匠と大不集會精舎造營志あり。あど。方四十里

の。日午の里數あり。境內ハ七富莊嚴の大伽藍成就し。ハ。今も。巴園地の  
 六里サ。四下。境內ハ。七富莊嚴の大伽藍成就し。ハ。今も。巴園地の  
 施すハ須達樹木の施すハ祇陀堂塔の施すハ月蓋は。是ハ。二個大檀  
 那ハ。成然。志精舎ハ。有る。是とも。萬の地も。有る。是は。て。祇園  
 精舎と号し。り。世ハ。天竺の五山といふ。ハ。廻遠祇園精舎。ハ。竹林。大  
 林。檀多林。那蘭陀の五箇寺あり  
 周ハ。ハ。檀那とハ。梵語の訛畧之西域ハ。施すの。と。陀那。律  
 庭と称せると。唐山ハ。觀音と。檀の音を假て。陀那。訛り。律庭  
 を畧して。檀那といふ。由。載て。書言故事。ハ。あり。今も。ハ。檀那。ハ  
 推あて。物と施す。の。称。是。ハ。今。一。皇國の僧施之。と。さ。て。檀  
 那。といひ。檀家と称し。檀家も。亦。憑。その。僧。を。檀那。寺。と。是  
 を。称。す。も。其。謂。意。無。不。あ。り。法。界。次。第。ハ。施。ハ。二。檀。ハ。是  
 一。ハ。財。施。二。ハ。法。施。と。あ。る。と。見。る。ハ。俗。ハ。僧。ハ。財。を。施。す。



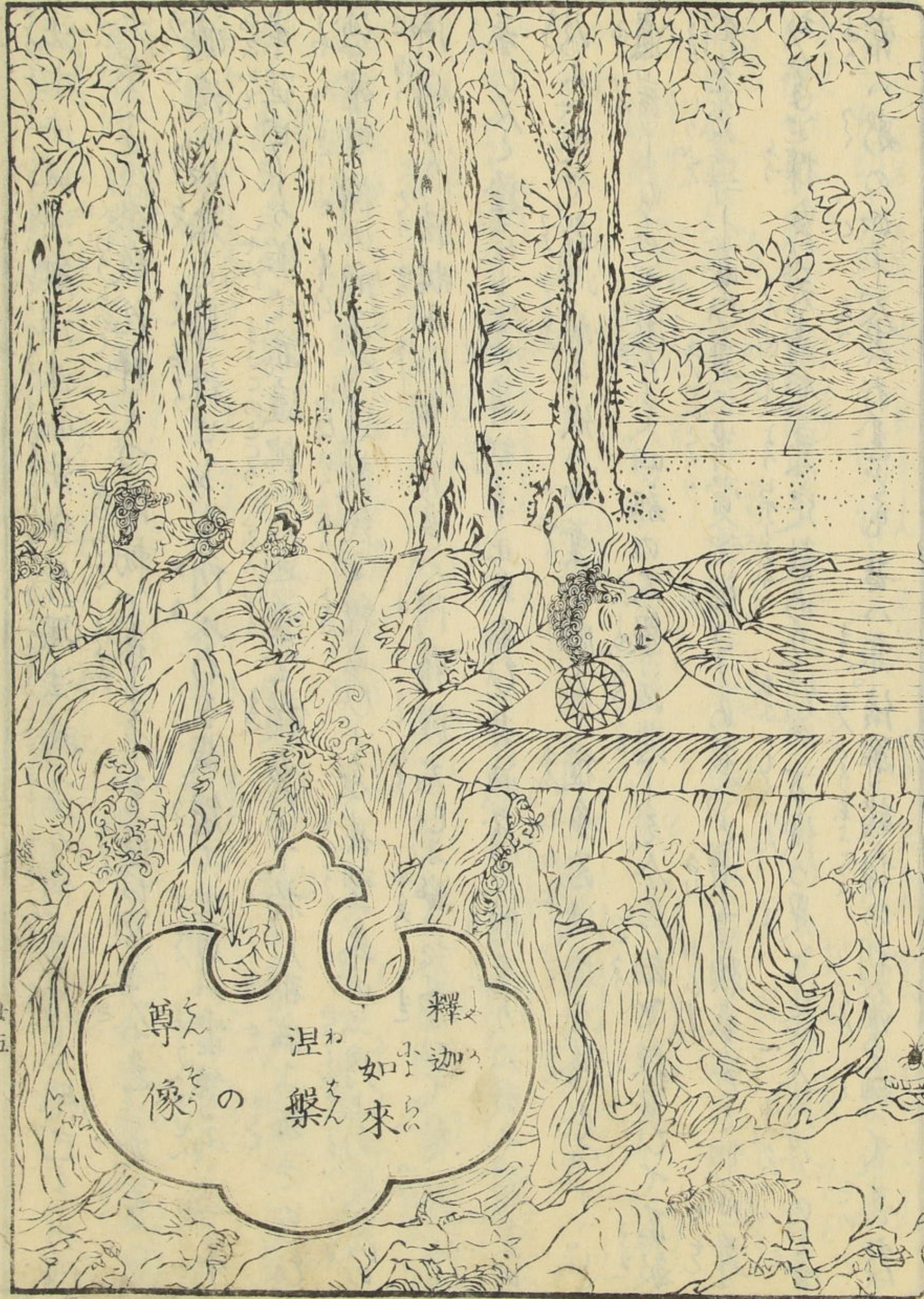
故不僧より檀那といひ僧ハ俗ノ法と競施を故不俗より  
亦檀那といひあり

茲ニ六名の道師あり各仙術を得て神通を弄ひ舍衛國王不重ん  
せしむるが精舍造営と見て大ひ不厭き釋迦當國不來るとわらへ  
俺道衰減をべしと思ひ佛法ハ人種を對亡國の基あり精舍造  
營停止しなると國王不厭しはまとも當時國王も釋尊の徳と慕ひ  
あふむぞ敢て終と容ぬむねバ我慢の道師們氣と焦燥ふら僧徒  
們と術と揃べて道家と佛法の勝負を覺かぬと自望し國王の  
國不於し舍利弗と術と揃ふ一個も勝と能はざるバ有弊我慢の六  
道師も舍利弗の神通不伏し俱不佛牙と成り國王も人父子群臣  
們も愈佛法を尊とて躬て世尊と禮園精舍ハ迎入奉まね

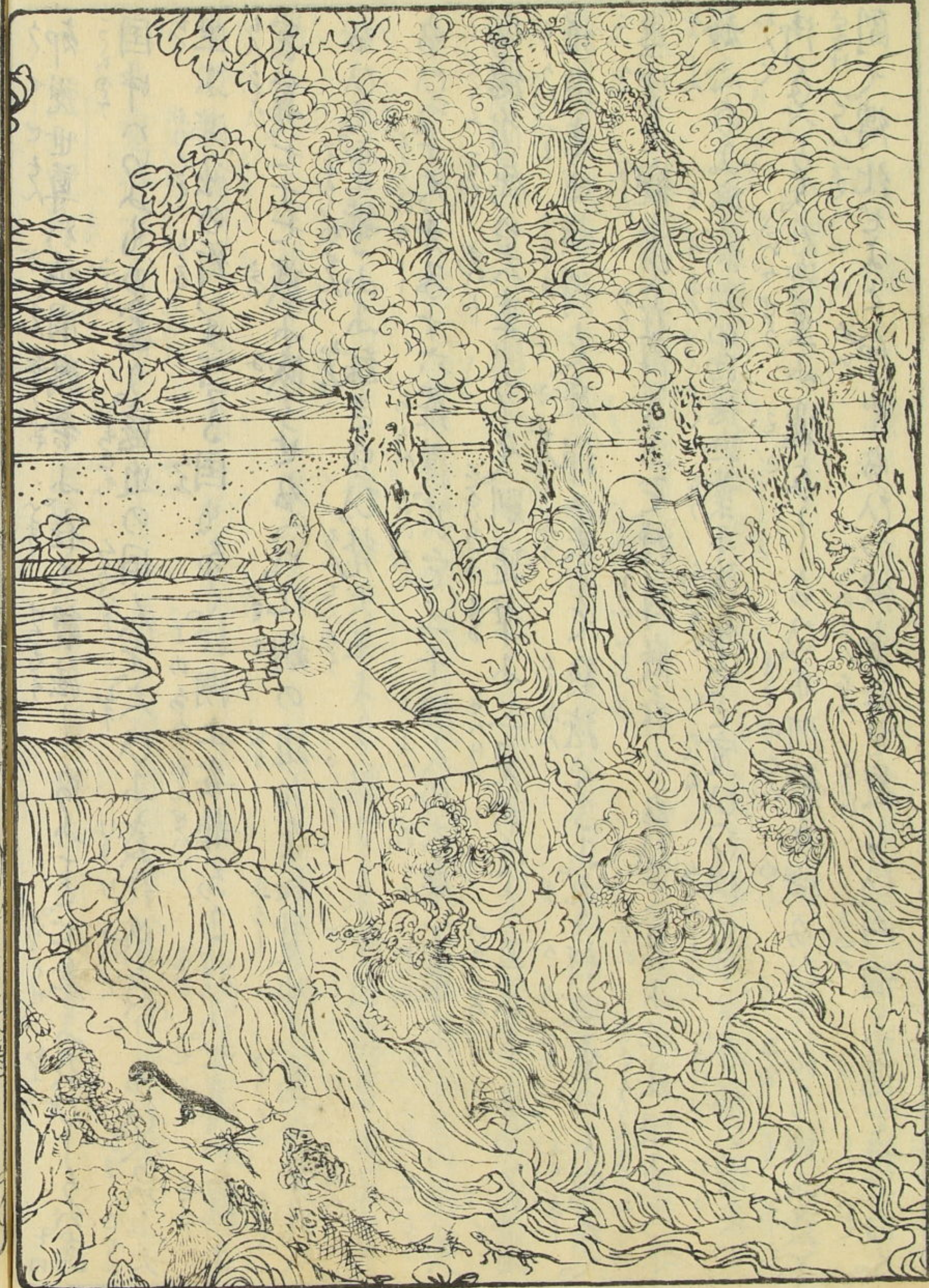
三十四 釋迦牟尼佛涅槃不入の并佛舍利成養

却後世尊ハ禮園精舍ハ在て競法ハあふと七年不及びし其の  
國中ハいも更あり遠近の國人を大ひ不教化濟度ハあひ今ハ五天  
竺不佛法の行いまざる國もあは湖上安靜ある釋不世尊ハ既不  
密算七十七歳不成らせぬバ化期の迫たを知覺めし高才と遊  
ぬひて靈鷲山不踊きぬひ梵天王より教りし金波羅華と拈ト  
ぬひつ十大弟子十六羅漢其它三千餘人の大衆と聚て今日の競法ハ  
切徳附屬の大率ありて則遠華不三見ありと宣示しぬはも諸  
羅漢來と悟得と座禪工夫して黙法するふ摩訶迦葉の熾然と  
虚空を觀トて在けるふぞ釋尊歡喜しぬひて吾不正法眼藏涅槃  
妙心あり摩訶訶衍の切徳迦葉不附屬と宣ひつ伴の華と令歸の僧衆と  
漸むづろ大迦葉不遞与しぬひ亦阿難を熾ぬひて汝も俱不慈と  
副て傳化せよと命トぬひつ彼金鉢と授ぬひ兩個不偈と授て曰く





釋迦  
如來  
涅槃  
の  
尊像









降しぬひ。極樂界へ引接しぬ。俾相定不尊くも。世尊の神靈を  
 守護しぬひ。諸神諸菩薩亦若。翠天不昇ぬひけり。釋の奇持不  
 孰々亦感涙と流さるべた。大衆齊一合掌して。恭敬禮拜して。是  
 處て諸羅漢の泣々も。如來の尊嚴を守護し。まろりて。跋提河の邊り  
 あり。天冠をへ入奉り。淨香湯りて浴灌し。まろりて。大迦葉の來ると  
 後けり。世も二月望の佛滅日と。十二月と。ついであり。開の佛滅日の  
 辨不述し。周の建支不據るの。古典と懸も。涉獵ぬあり。涅槃經  
 不曰。如來何故二月涅槃。善男子。二月名春。春陽之月。万物生長。種  
 植根栽花果。敷榮江河。盈滿百獸。孚乳。是時衆多生常想。為破  
 衆生如是常心。說一切法。悉是無常。云。遠經文不依。二月ハ今の  
 二月不。其代不當。一。周の二月。丑の月。六。丑の月。今の  
 万物生長。花果敷榮。江河盈滿。百獸孚乳。是時衆多生常想。為破  
 を知るべし。西上人の言ふ

答問 崑崙  
 驚ノ梵語  
 爰ニ山中ノ  
 別名ニ記シ  
 ハ編者ノ私  
 十リ

預りの花の下にて。戒死ある。其二月の正月の頃  
 是涅槃の時と慕ふ。同法体題。當時大迦葉ハ靈鷲山あり。答問  
 當不在けり。光明輝くと見く。大く演き。如來涅槃しぬひぬ。と嗟  
 嘆し。涙湧と流。娑羅雙林不。追り。世尊ハ既不化しぬひぬ。  
 迦葉ハ涙を流し。が。彫て。果とと氣と。扇す。四部の弟子們を  
 悉めつ。安葬の儀と取當め。貴族老若の男女共。偈怨歎の涙を流  
 不。法棺と送り奉る者。幾億萬人と。小教を知らぬ。彫て。佛跡ハ金  
 棺の傍。香薪を積累。淨火と以茶毘。奉を。玲瓏。佛舍利  
 數萬顆。金剛石の如く。現すと。大家歡喜。踊躍。百国の王。ち  
 戴き。各本國へ持還り。より。密塔と造り安置しぬ。都如來正法  
 を以。世を持しぬ。四十九年。普く有情と化度しぬ。其教勝て



算ふべりし。切徳実小廣大なる源遠くして末益分り。三國不傳りて今ハ八字九字より。十五字不流と云るも。如來一世不説也。華嚴阿含。方等般若。法華。涅槃の六題。經中と別て。披立。撰せざるの。今不説不雜陀王も。太子不密位と讓り多し。出家適世。一あひつ。假説沙王。優填王。舍衛國王。其貴子。祇陀。阿闍世。龍檀。と南と。月蓋。須達伽陵の長者。彫工。毘首羯磨。その他有縁の一切衆生と。勤行功德の十大弟子。十六羅漢。共偈ふ。此生の素懐を遂。一ハ威。佛法の教化。不依ま。り。今。是ハ後世。今日まで。四大菩薩と。脱。く。極樂界。に。生。ず。者。幾億萬人。との。不。限。も。無。ハ。是。や。世尊の。引。攝。一。ハ。大。慈。悲。不。有。る。ハ。上ハ。王。候。より。下。庶。人。不。至。る。まで。最。も。法。ト。尊。む。べ。し。

三十五 日本精流宗門の傳統并 佛法方便の妙

佛法 皇國不傳り。一人皇二十代。欽明天皇十三年十月。百濟國の

聖明王より。金洞の新迦維像と。經論若干卷を。授りて。遠法流法中。不。最。殊。勝。之。無。量。無。邊。の。福。徳。果。報。を。せ。し。初。預。情。不。依。て。脇。の。邊。と。り。し。と。無。し。云。く。是。より。佛。法。皇。國。不。入。て。蘇。我。大。臣。大。比。不。信。し。聖。徳。太子。依。り。あ。ひ。て。愈。其。教。法。を。江。湖。上。不。弘。め。あ。ハ。柳。八。宗。と。稱。す。ハ。一。ハ。三。論。二。ハ。法。相。三。ハ。俱。舍。四。ハ。法。實。五。ハ。律。六。ハ。華。嚴。七。ハ。天。台。八。ハ。真。言。是。之。禪。を。加。え。て。九。宗。と。し。曹。洞。淨。土。を。入。て。十。一。宗。と。も。咸。天。竺。中。華。少。て。發。起。せ。り。蓋。源。遠。く。釋。迦。如。來。より。出。ぬ。も。無。し。三。論。宗。ハ。本。邦。不。宗。有。と。云。る。始。也。天。竺。の。青。年。菩薩。を。祖。と。す。日本。不。ハ。推。古。天。皇。三。十。三。年。春。三。月。高。麗。國。より。惠。灌。と。し。不。僧。渡。來。て。是。を。弘。む。河。州。井。上。守。の。用。山。之。法。相。宗。ハ。天。竺。の。護。法。菩薩。と。祖。と。す。唐。の。玄。奘。三。藏。天。竺。より。傳。へ。て。中。華。不。弘。め。と。日本。より。大。慈。冠。豫。足。公。の。子。定。惠。和。尚。彼。國。一。渡。り。日。域。一。傳。へ。り。より。



玄昉僧正是を弘む俱舎宗も亦玄昉是と傳え法實宗の道慈律師  
 本邦不傳し一とも遠二宗の諸宗の学不備えしもの別不宗門を立  
 るしと益し律宗の天竺の蘭多之藏を祖とす 日本書 孝謙天皇の  
 濟宗 天平勝室六年唐の終真和尚來朝して是と弘む南都招提寺  
 の用山之華嚴宗の中華の華嚴和尚と祖とす 日本書 良辨僧正是  
 を傳えて東大寺不興隆せり天台宗の唐の陳の南岳大師と祖とす  
 日本書 桓武天皇の濟宗 延暦二十三年不迫江の最澄入唐して  
 道遠和尚より授傳し翌年六月不迫江に  
 比叡山あり是と弘む傳授大師是之真言宗の天竺の龍猛菩薩と  
 祖とす 日本書 讚州の空海最澄と俱に入唐して慧果阿闍梨  
 より授傳え 平城天皇の大同年八月不迫江に是と弘む弘  
 法大師是之且遠宗不新古の二義あり古義は弘法大師の流新義は

根柢の興教大師の流あり 禪宗の天竺の達磨大師と祖とす  
 日本書 後香羽院の濟宗 文治三年四月備中の榮西入宋して英  
 龍の流と授傳え遂久二年の四月返朝して是と弘む淨念達仁寺  
 の開山平光国師是之曹洞宗の 日本より道元和尚入宋して如淨  
 禪師より授傳え返朝の後山城あり源草平て是を弘む我永平  
 寺の開山之淨土宗の天竺の切勝馬鳴大師の流と傳え 日本書 他  
 法然上人 後香羽院の濟宗不是と弘む上人の最初天台と學ひし  
 後思谷不在て専念佛の淨土門と開たりしより流派教多不流布を  
 と雖も就中盛人ありは鎮西西山の二流之聖光上人の流と鎮西流  
 系とりひは荒空上人の流を西山流系とりは遠西僧俱不法然上人の  
 系より以上十一宗の西域中華より傳ふる所備亦一向宗の眞宗法  
 院上人の弟子善信坊建曆年中より是と弘む親鸞上人是より遠



上人の六織冠十八世の裔。宰相有国の六世。日持有範の實子。一七  
伯父六條三位能綱の養子と爲り。童名勢満丸と喚ばし。九歳  
ふして出家。一七。慈護和尚の弟子と爲りて。天台宗ありけり。後法法  
の門下入。寛弘真宗の用流。弘長二年十一月廿八日寂。年九十  
一歳。子孫連綿と相續して。十一代顯如上人の時。濟而強科と號  
す。一七。後拍東院唐感ましく。其賞として。奉願寺。初門跡の  
号と許さる。

因ふの門跡号ハ。字多法皇の在りませし。濟室の仁和寺と後の  
世ハ。濟門跡と稱するより起まる。法皇の在り。所あるハ。濟門の  
跡といふ義あり。天子の命。命は門跡と云當らむ。授濟門跡と稱す。ハ  
法華宗ハ。文應年中。日蓮上人是と弘む。高祖ハ。貫久。方濟門。重忠と喚  
ばし。若の實子。一七。貞應元年二月十六日。安房の小港。不けた。若年。一

大徳寺せし。法華經を勸めて。諸人と教化し。其黨頗る多し。一七  
寛弘一。字と開興せり。弘安五年十月十三日寂。年六十一歳。時宗ハ  
存縁の一。遍上人。熊野権現の靈夢を感得して。建治年中より。諸  
國と遊び。是と弘む。故不遊行上人と稱す。河野七郎通弘ハ。二男  
あり。大念佛宗ハ。崇徳院の濟宗。大治二年。大承の良忍上人弘めり。其  
其後。中絶あり。一七。後醍醐天皇の時。深江法明再興せり。其  
風一向宗。不似て異る。其妻を帯て。肉を食さば。真盛派ハ。坂本の真盛  
是と弘めり。一七。其名あり。以上四字ハ。日本あり。建了野の宗門。通計  
十五宗。門流と分ちて。各其派と異ふ。まきども。頼く。自ハ。一切衆生を愈  
善懲惡の教戒。不して。慈皆後世と吊の。然る。と。近世。俗間の。文盲。無  
智の。匹夫。匹婦。們。地獄。ハ。佛の。方便。あり。死。一七。の。後。不。欺。の。如。き。呵。責。あり。  
ぶ。死。理。ハ。無。し。と。生。悋。の。不。信。心。より。不。正。行。ハ。も。隨。多。り。亦。地。獄。極。樂。ハ。



天小もわらむ地小も有ま現世の中不威是なり。同小人間不けまても貴  
 後貧富幸不幸善惡邪正不隨ひて各得ぬる地獄もなり。亦極樂も有  
 事とど是ハ捨る説ありねど泥犁毎と云ハ然るま地獄と見えず  
 者和漢小多り其一二を言ハ後周の武帝崩逝ハあひ地獄不隨ち  
 ぬひと趙文目死し之と見つ蘇生て告るて冥報記て古書不載  
 也。 覺国小ハ醍醐天皇崩逝の後日鏡上人頓死せまて。帝之臣  
 共信小地獄不責らまぬひと正し。覺奉りて蘇れ由を奏聞し其  
 苦患を救ひ奉り事端抄不出る。帝王まら不善ハ如斯可責  
 をせまはる小次て民間穢の男女ハ新善行功德無き者死しての後小  
 河責と受り地獄垂たと有るま且二世の説も佛の方便渡し了理ハ  
 無しとつ小も亦然るま死て渡し了者無量之李白死て郭祥  
 正とせま事大明一統志小見えり。永禪師死て房館とせま由

東坡待序不載。戒禪師死て東坡と生ま由冷斎夜話小  
 載也。亦法華經を讀し女死て山谷と生まと春清孫不記  
 たり。宋の葉夢得が孫姑小自樂天ハ仙宮よりけま来由と載也  
 如斯例動くハ六收舉る小違わらむ世の人渡しむてハ惡人浮  
 雲の富と保ち善人薄命小て貧小苦む。因果應報も空  
 々々人希奇ある哉妙ある哉百世の今日まで斯のま不可思議  
 の正教を遺しぬひ。釋尊が在世七十九年の長壽を數指小過ぬ  
 一小書小説盡まへくも有ね。只百令が一と記して佛法皈依の婦初  
 の為小其切速最尊の崖界とも知れせま歎し。小條の如く編修  
 一ぬ小まハ漏る事も動うて今ハ婦女子も尊知るめ。羅漢多  
 周流流離王の暴惡雷死の後とも宥たり。梵中流離王が因果應報の  
 禪ハ只是懲惡の方便也。思小流離ハ虛名のみ其人ハ有てま











